

令和6年1月

ようがの学び舎  
世田谷区立用賀中学校  
学校関係者評価委員会

### 令和5年度 学校関係者評価委員会報告書

本年度も学期ごとに学校より提示いただいた評価関連資料（学習習得確認調査・行事アンケート・校内配布文書等）の分析、及び学校から資料の背景説明などを受け、得られた情報を蓄積し、10月に実施された学校関係者評価アンケートの結果と合わせ、総合的に以下のような報告書を作成しました。これは、学校関係者評価アンケートの結果、並びに自己評価の報告に偏りがちであった学校評価の改善策として平成28年度より取り入れた方法です。今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、用賀中学校がより一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

なお、令和4年度より学校関係者評価アンケート保護者回答にはすぐーるを使用しました。

#### <調査結果の概要>

本年度の保護者アンケートは、回収率78%（昨年度61%、一昨年度87%）と前回よりかなり高くなり、一昨年（プリント配布）の水準に近づいた。各学年においても同様である。（1年生60%→77%、2年生60%→92%、3年生62%→77%）前回より保護者の回答をプリント配布からすぐーるでの配信に変更し、設問等がわかりにくい、回答しにくいなど様々な理由により、昨年度は回収率の低下があったが、その後行事参加への回答など、すぐーるでの配信を積極的に行ってきたため、徐々に慣れてきたものと思われる。学校において3度の再アナウンスを行ったことも、回収率のアップにつながった。来年度以降も、さらなる回収率上昇のためにどうすれば良いか検討が必要である。

各設問については回答のA「とても思う」B「そう思う」の割合の合計を肯定的評価と捉え、肯定的評価60%のラインを評価の目安とし、それ以下である項目は課題がある項目と考えた。

前回「学校行事は子どもにとって楽しい。」「学校行事は楽しい。」について肯定的評価が高かったが、今回はさらに上昇した。コロナ禍において制限されてきた行事をいろいろな手法を用いて実施することができ、保護者生徒ともに肯定評価につながったものと思われる。「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。」は前回同様に否定的評価が高かった。保護者アンケートの「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」は肯定的評価が高かった。その他、おおむねの回答で肯定的評価が60～80%と高い数値が得られ、用賀中学校が高く評価されていることがわかる。教育活動及び学校運営が円滑

に進められていると考えられる。

生徒アンケートの「学校生活は、楽しい。」の肯定的評価が88%（1年生88% 2年生81% 3年生94%）、「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」の肯定的評価が88%と、いずれも高い数値を示していることから、生徒たちは落ち着いて、充実した学校生活を送っていると言える。

#### <評価項目に沿った評価>

##### 1.学習指導について

生徒アンケートの「先生は黒板の書き方やプリントなど工夫している。」の肯定的評価は88%（1年生87% 2年生83% 3年生93%）、「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の肯定的評価は87%（1年生82% 2年生85% 3年生94%）、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表しあったりする機会がある。」の肯定的評価は94%となっており、質の高い授業によって、約9割の生徒が授業をよく理解していることがわかる。今後も、学習指導の更なる向上をめざすとともに、少数（4%）ではあるが否定的評価をした生徒たちの基礎学力が定着するよう、教職員の適切な指導や放課後学習支援など、少人数での充実した学習支援を継続していただきたい。

一方、保護者アンケートでは「本校は、黒板の書き方やプリントなど工夫している。」は54%、「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価は61%であり、生徒のアンケートと保護者アンケートに開きが見られた。「本校は、黒板の書き方やプリントなど工夫している。」に「わからない」と回答している保護者は30%、（前年度は42%）「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」に「わからない」と回答している保護者は24%（前年度は32%）で、昨年度よりも低減している。今年度においては、新型コロナによる制限が緩和されて、授業参観日やPTA行事、道徳地区公開講座などへ保護者が学校に足を運ぶ行事が一部再開できたためと考えられる。さらに保護者が授業への関心・理解がもてるように学校日より、学年日より等での情報の提供が必要と思われる。

##### 2.生活指導について

生徒アンケート「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」の肯定的評価は88%、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」は82%、「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」は83%と、3項目すべてにおいて高い数値となった。これは、大多数の生徒たちがきまりを守って学校生活ができていると自己評価をしており、また、教師の指導にも納得していることがうかがえる。

保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」の肯定的評価は前年度63%から今年度68%に上昇し

たが、生徒アンケート「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」の肯定的評価 88%であり、保護者との評価に開きがある。しかし地域アンケートでは「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。」に関して高い評価を得ていることから、学校全体が落ち着いている様子がかがえる。こうした結果から、学校での過ごし方やルールに関する指導について、その内容がより保護者にも具体的に伝わるような工夫を期待したい。

### 3.学校行事について

生徒アンケート「学校行事は楽しい。」の肯定的評価 92%（1年生 90% 2年生 88% 3年生 97%）、「学校行事は、達成感がある。」の肯定的評価 91%（1年生 91% 2年生 89% 3年生 92%）と全学年、高い評価になっている。

ここ数年は新型コロナにより、様々な行事が中止、縮小、延期になり、特に現3年生は行事を経験できず肯定的評価が低かったが、いろいろな手法や技術を使い、工夫して行事を行い、子どもたちがいろいろな行事を体験できるようになったため、肯定的評価が高まったと思われる。今後も様々な手段を用いて多くの行事が体験できるように期待したい。

### 4.進路指導について

生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある。」の肯定的評価は 66%だった。学年別の肯定的評価は前年度と比較して、1学年 32%→45%、2学年 89%→81%、3学年 78%→71%であった。1年次の評価が上昇しているため、将来の進路や仕事について、早い段階から興味をもてる指導が成果を上げてきており、今後さらに工夫されるとよいだろう。学年が上がるにつれて、評価が若干ながらも低下していることから、段階的に興味を持てる進路指導を期待したい。

また、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」の肯定的評価は 67%であった。学年別の肯定的評価は、1学年 52%、2学年 74%、3学年 75%と 2.3年生では高い数値になっている。1学年から進路や将来について考える機会が増えていること、学年が上がり必要な情報が十分に得られていることが考えられる。さらに充実した授業や進路情報の提供を期待したい。

保護者アンケート「本校は、子どもの進路や将来の仕事について考える授業がある。」の肯定的評価は 64%、一方「わからない」は 21%（昨年度 25%）であった。キャリア教育や学校で行っている取り組みについてお便りや学校のホームページで紹介する工夫により改善が見えるため、今後も必要・有用な情報を保護者に提供していただきたい。

保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」の肯定的評価は 62%で、昨年度の 53%より大きく上昇した。保護者は子どもの入れる学校はどこなのか、成績との相関関係、いわゆる偏差値などを使ったデー

タを求める傾向にある。本年度も昨年度同様、その要望に対し、P T A主催の進路説明会を開催し情報提供を行ったところ大反響であった。学校が主体でない情報提供の機会も保護者に必要であると思われる。

一方、生徒たちは、生き方や将来の進路について学び、それを基に進路選択を行う学習を行っており、保護者も高校の偏差値だけでなく、子どもたちの個性や適性など、将来を見据えた進路を選択していく必要があると感じられる。

#### 5.部活動について

生徒アンケート「部活動は、楽しい。」・「部活動は、達成感がある。」、保護者アンケート「部活動は、子どもにとって楽しい。」・「部活動は、子どもにとって達成感がある。」はともに、肯定的評価 75%前後だった。

教育課程外の教育活動ではあるが、学校生活においては大事な役割を担っていると思われる。一方で否定的回答が約 10%あり、生徒アンケート全体の中では多くなっている。国などから出ているガイドラインの周知を進めていくと同時に、部活動本来の目的の一つである、生徒各自が目標をもって活動ができるような部活動運営に期待したい。

#### 6.教職員について

生徒アンケート「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。」の肯定的評価は、生徒 88%に対し保護者 61%、また、生徒アンケート「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の肯定的評価は、生徒 88%に対し保護 54%で、生徒と保護者に開きが見られる。

今年度も学校公開などが中止になったため、30%前後の保護者がわからないと回答したためとも思われる。生徒からは高い評価を受けていることから、保護者に対して、ICT の活用場面を「学校・家庭それぞれにおいて具体的に伝える」などして、理解を深めていくようにしていくことが必要と思われる。

#### 7.広報活動・情報提供について

保護者アンケートの「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」の肯定的評価 89%、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」の肯定的評価 87%と、情報提供に関する肯定的評価は高く、保護者の知りたい情報について十分提供が行われていることがわかる。

緊急メールなどが活用され、ホームページも保護者が知りたい内容をタイムリーに更新するなどしてきたためと思われる。今後も I C Tを活用してタイムリーな情報発信をしていただきたい。

また、毎週発行の各「学年便り」、毎月発行の「ようがの学び舎 用賀中だより」は写真も多く、保護者の目に留まりやすい工夫がされている。今後も I C T、プリント両面の情報発信を継続していただきたい。

## 8.地域との連携について

地域アンケート・保護者アンケートにおける、地域との連携についての設問では、地域アンケートでは高い評価を受けているが、保護者アンケートでは60%前後（昨年度60%前後）と昨年度と同等の評価になっている。

今年度は、例年行われている職業講話や職場体験など地域の方々や施設にご協力をいただいている事柄は、様々な手段を用いて行われるようになってきているが、学校・PTAの地域行事へ参加・お手伝いを行っている事柄が、依然として縮小また中止になっているために、保護者アンケートから見られるように減少傾向にある。

地域が学校に協力的であり、学校も地域に関わっていく姿勢がこの数年定着していたため高い評価を受けているが、保護者が地域の活動にも参画できる場面を作り、そのための啓発活動も必要と思われる。今般の状況では、厳しい面は理解できるが、来年度以降、再び活発な地域との連携活動が行われるようになることを願う。

保護者アンケート「学び舎の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている。」の肯定的評価51%は、半数以上の保護者が卒業後も小学校にも関心をもっていることがうかがえる。

## 9.学校の安全性について

学校の安全性については保護者アンケートのほとんどの項目で肯定的評価が70%前後(昨年度90%)で例年高い評価であったが、災害時の情報提供や対応については、保護者の意識が高まるなか、学校の対応が同じことの繰り返しになっていないか、より安全性の高い施設を目指し、今後も行政へは施設面での充実のための要求を続けるとともに、生徒への安全指導を繰り返し行っていくことが必要と思われる。昨今災害が国内でも頻繁に発生するようになり、保護者も不安に感じている面があると思われる。非常時に学校がすべき対応、また保護者との連携、保護者が心得ておくことなど、基本的な事柄について着実に伝えて、情報を共有するようにはしていただくように願う。

地域アンケートでは全ての項目で高い評価を受けており、学校の安全性に対する取り組みが理解されていることがわかる。昨今、学校において外部からの侵入者による傷害事件なども発生し、学校に対する安全性への不安を感じる保護者もいるだろう。事件や事故を未然に防ぐための学校また区全体の取り組みも広報しておく必要があるだろう。

## 10.学校全般について

生徒アンケート「学校生活は、楽しい。」の肯定的評価88%、「学校生活は、達成感がある。」の肯定的評価78%と高い数値を維持している。生徒たちが学校

生活を楽しみと考えることは一番大切なことであり、学校をはじめ教職員のたゆまぬ努力の成果と評価できる。その中で、生徒アンケート「学校生活は、楽しい。」に前年度13%であった否定的評価が、今年度は7%であることを受け止め、今後も全ての生徒たちにとって「楽しい学校」「達成感の得られる学校」であり続けられるよう、学校全体で取り組んでいただきたい。

保護者アンケート「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価84%で、保護者も子どもたちが楽しい学校生活を送っていると感じていることがわかる。今後、学習指導、進路指導など保護者の評価の低い項目について、対策を検討していただきたい。

小学校との交流についての設問は保護者の肯定的評価48%、生徒は29%と低い評価になっている。例年は「おはようコミュニケーションデー」「学び舎生徒会」、「中学校運動会時の3校合同聖火リレー」など、学び舎の様々な取り組みが行われていたが、やはり新型コロナの影響でほとんどの行事が中止、又はそれぞれの学校のみでの活動になっているために交流が叶っていない。

「ようがの学び舎」の活動も17年目を迎え、教職員の研究授業を通じた交流は充実し、定着しつつあるが、生徒・児童の交流は学校間の調整もあり、容易にはできないこともあるであろうが、より良い交流の実現のため、来年度以降、毎年行われていた取り組みについても、再検討を行い、問題点を改善しつつ、交流の再開と、交流が継続されるようお願いしたい。

## 11.学校独自項目

保護者アンケート「本校は地域運営学校の指定を受けて、様々な活動に取り組んでいる。」の肯定的評価は56%（昨年度51%）と微増した。地域アンケートは同設問に肯定的評価が上昇している。同設問に対して、保護者アンケートは「分からない」との回答が33%（昨年度39%）となっている。やはり、いまだ新型コロナの影響とみられ、学校・保護者・地域の連携、協力により、活気ある教育活動が行われることを期待したい。

保護者アンケート「ご自分のお子さまは、用賀中学校の生徒であることを誇りに思っている」の肯定的評価は70%であり、ようがの学び舎で学ぶことを誇りと思える生徒が今後もさらに多くなることを期待したい。

## <学校への提言>

学校関係者評価委員会では上記にあげた分析・考察をもとに、本年度、4つの項目について下記のように提言する。

### 1. 新しい「学力観」への理解

試験などで高得点が得られるための知識が学力と捉えがちな保護者が多い中、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等が本当の学力であるという新しい「学力観」についての理解を深める必要がある。

また、この「学力観」に基づき学習指導を進めていることを知っていただくためにも、より多くの保護者が参観日に足を運べるよう、日程調整に加え、授業への関心がもてるより一層の広報活動をお願いしたい。

### 2. 教職員と保護者の信頼関係

新型コロナ前は「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」の問いに「しにくい」「よくわからない」と4割の保護者が回答していたが、昨年度より7割の保護者が同問いについて「とても思う」「思う」と回答した。コロナ禍において、保護者との向き合い方に変化が生じ、保護者から学校への連絡のツールが多様になったためと思われる。今後もこうしたツールを有効的に活用して、学校として更に、保護者とのより良い関係を続けていけることを期待したい。

### 3. キャリア教育への理解

保護者の進路指導に対する考えが、進学先の選択やその合格可能性に偏りがちであり、将来、社会人として自立していくために必要な能力を身に付ける指導（キャリア教育）についての周知が低い。保護者がキャリア教育について理解できるような説明と3年間を通して段階的に行っている学校の取り組みについて、今後も更に情報発信をお願いしたい。

### 4. 生徒一人一人とのコミュニケーションの充実

「先生たちは、生徒が相談しやすい。」と考える生徒は約7割である。指導場面や状況によって、受け止め方、感じ方が個々の生徒により異なり、数値のみでは判断が難しいが、卒業しても部活、生活面などで親身になって相談に乗ってくれる、と卒業生の話がある。三年間、親身になって向かい合ってくれ、信頼関係が築かれている結果であると思われる。今後も、生徒一人一人と丁寧に話す時間・機会を十分に作っていただきたい。

以上